

# 資料編

---

- 1 地域特性
- 2 市民・事業者のアンケート結果

## 資料編

### 1 地域特性

#### (1) 位置・地整

平成 16 (2004) 年 4 月に 2 町 2 村 (安田町・京ヶ瀬村・水原町・笹神村) が合併して誕生した阿賀野市は、新潟県下越地域、新潟平野のほぼ中央に位置し、南西側には、大河・阿賀野川が北へ向かって流れています。東側には五頭山、宝珠山などの山が連なり、五頭連峰県立自然公園、宝珠山自然環境保全地域に指定されています。また、その五頭連峰を背にして形成された扇状地に約 6,500ha の水田が広がっています。新潟市、新発田市、阿賀町、五泉市に接し、東西約 19km、南北約 15km、面積 192k m<sup>2</sup>を有しています。



図 1 阿賀野市の位置

## (2) 気候

本市の気候は、北陸地方特有の日本海気候に属し、冬期は市東部の五頭連峰を中心に多くの雪が降ります。月平均気温は最高気温が8月の26.5℃、最低気温が1月の2.5℃となり、降水量は梅雨時期と冬期間に多く、年間で1,800mm程度となっています。当市の特徴として、阿賀野川の水面を渡るように、時折強い南東からの風がこの地域を吹き抜けます。

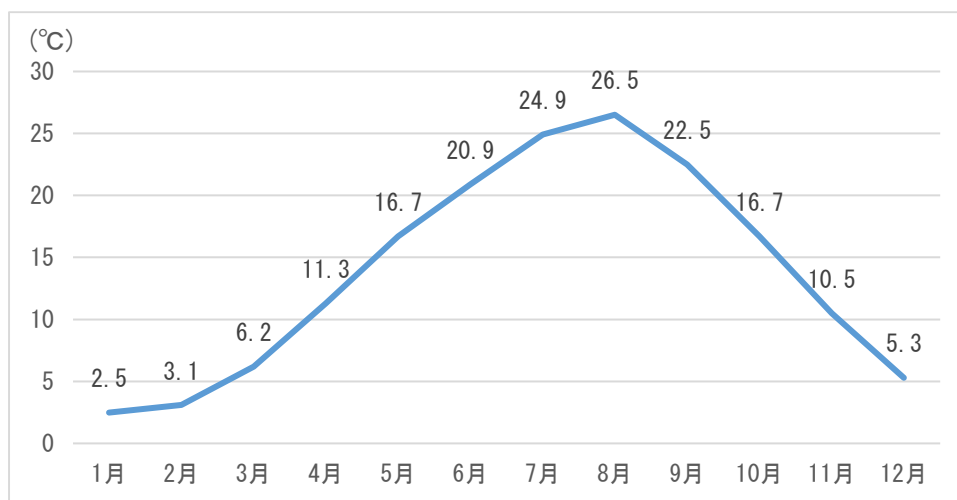


図2 月別平均気温[平年値-1991~2020年]

出典：気象庁（過去の気象データ検索）より作成

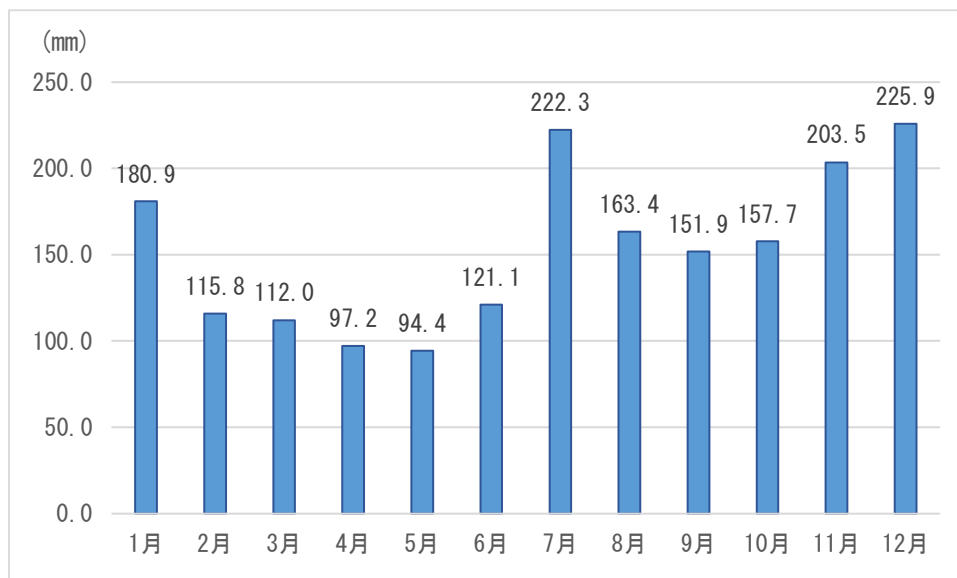


図3 平均降水・降雪量[平年値-1991~2020年]

出典：気象庁（過去の気象データ検索）より作成

### (3) 人口・世帯数等

令和2(2020)年10月現在の国勢調査における総人口は40,696人、世帯数は13,484世帯となっています。人口の減少が著しく10年間で5,000人近く減少しています。逆に世帯数はわずかに増加しています。

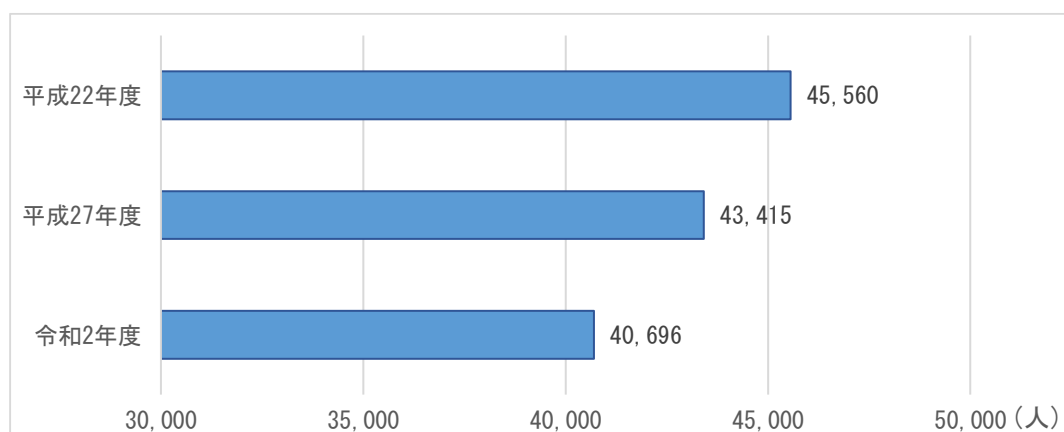


図4 人口の推移

出典：国勢調査（総務省統計局 令和2年調査）より作成

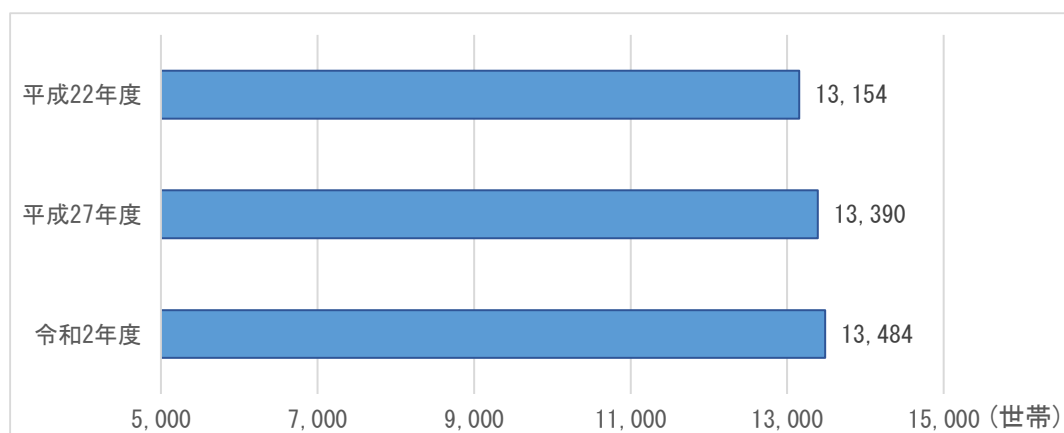


図5 世帯数の推移

出典：国勢調査（総務省統計局 令和2年調査）より作成

## (4) 産業

### 1) 就業人口

令和2（2020）年10月現在の国勢調査における当市の就業人口は、21,654人であり、産業別にみると、第3次産業に従事する割合が高くなっています。また、周辺の隣接する市町と比較すると、第1次及び第2次産業従業者の割合が比較的高い傾向にあります。

表1 阿賀野市と周辺市町の産業ごとの就業人口

	第1次産業	第2次産業	第3次産業	計
阿賀野市	1,946	7,353	12,355	21,654
新潟市	12,729	86,462	303,076	402,267
新発田市	2,996	14,642	31,777	49,415
五泉市	2,134	9,073	13,497	24,704
阿賀町	360	1,433	2,706	4,499

出典：国勢調査（総務省統計局 令和2年調査）より作成

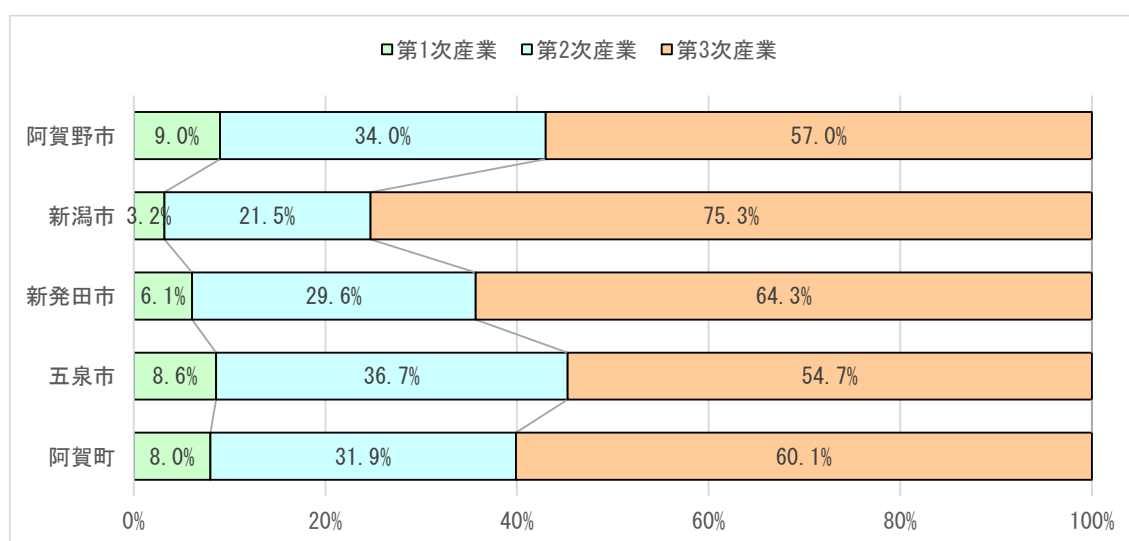


図6 阿賀野市と周辺市町の産業ごとの従業者数の割合

出典：国勢調査（総務省統計局 令和2年調査）より作成

## 2) 販売農家数

販売農家数は、割合が最も多い第2種兼業農家は減少傾向にあり、平成17(2005)年度には大きく減少しました。販売農家数全体でみると、5年ごとにおよそ1割のペースで減少し続けています。

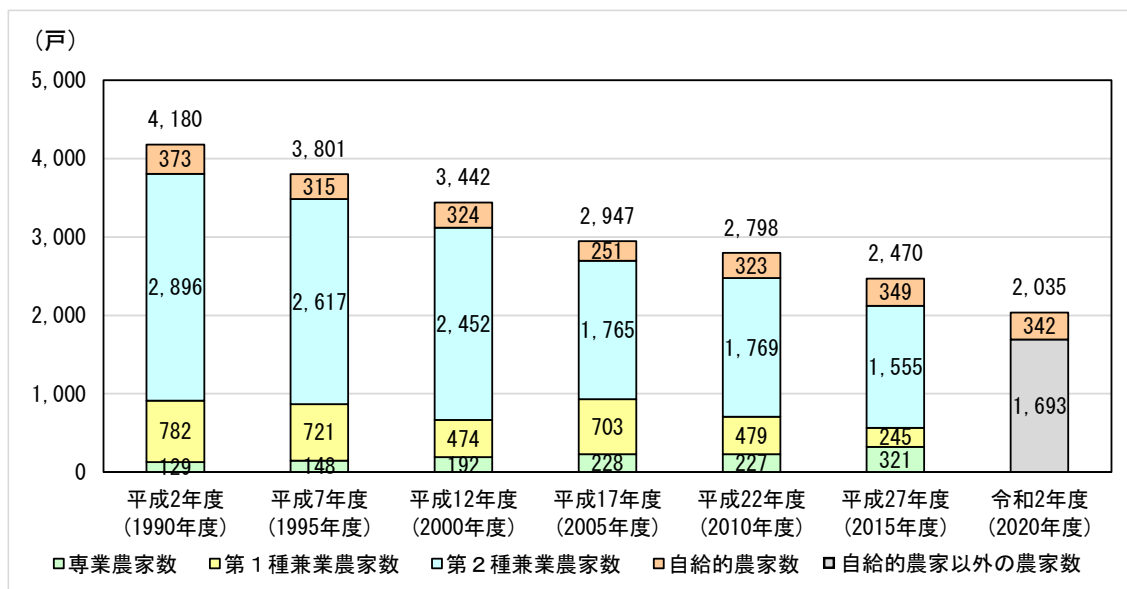


図7 専兼業別農家数

出典：国勢調査（総務省統計局 令和2年調査）より作成

※令和2年度より、国勢調査において専兼業別農家数の集計は廃止されました。

## (5) ごみ処理

一般廃棄物は、京ヶ瀬・水原・笹神地区では市内の環境センターで、安田地区では五泉市にある五泉地域衛生施設組合の焼却場で処理しています。

一人一日平均排出量は令和2（2020）年度で1,004g/人日と微増傾向です。ごみ排出量は、平成25（2013）年度以降横ばい傾向にあります。

五泉地域衛生組合（構成市町：五泉市、阿賀野市、阿賀町）では令和7（2025）年度竣工を目途に新ごみ処理施設を建設中であり、ごみ処理広域化を進めているところです。

表2 一般廃棄物の分別方法

地区名	京ヶ瀬・水原・笹神地区	安田地区
分別方法	9種類	10種類
	燃えるごみ／プラスチック製容器包装／紙製容器包装／金属類／びん類／古紙類／ペットボトル／燃えないごみ／粗大ごみ	燃やせるごみ／プラスチック・ビニール・発泡スチロール類／燃やせないごみ（ガラス・びん・陶磁器類）／燃やせないごみ（金属類）／有害資源ごみ／古紙類／アルミ缶・スチール缶／びん類／ペットボトル／粗大（不燃）ごみ
処理場	環境センター [阿賀野市内]	五泉地域衛生施設組合 [五泉市内]

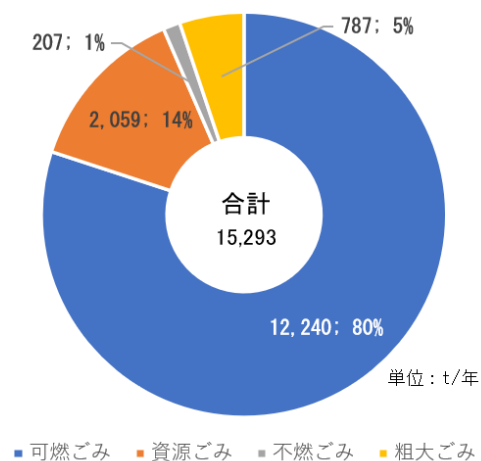


図8 ごみ排出量の内訳(令和2年度)

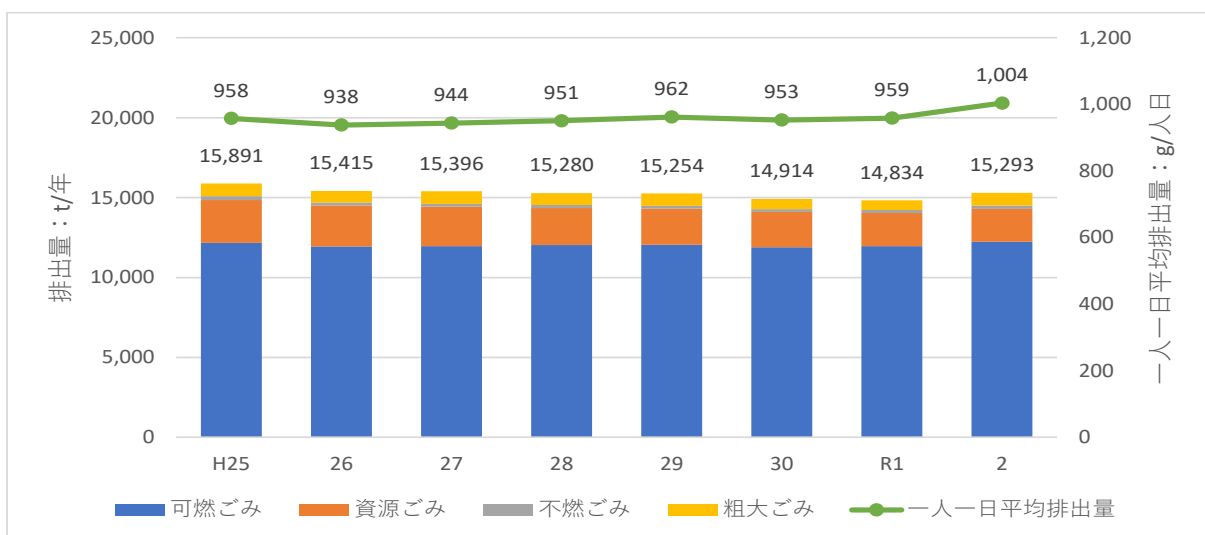


図9 ごみ排出量の推移

## 2 市民・事業者のアンケート結果

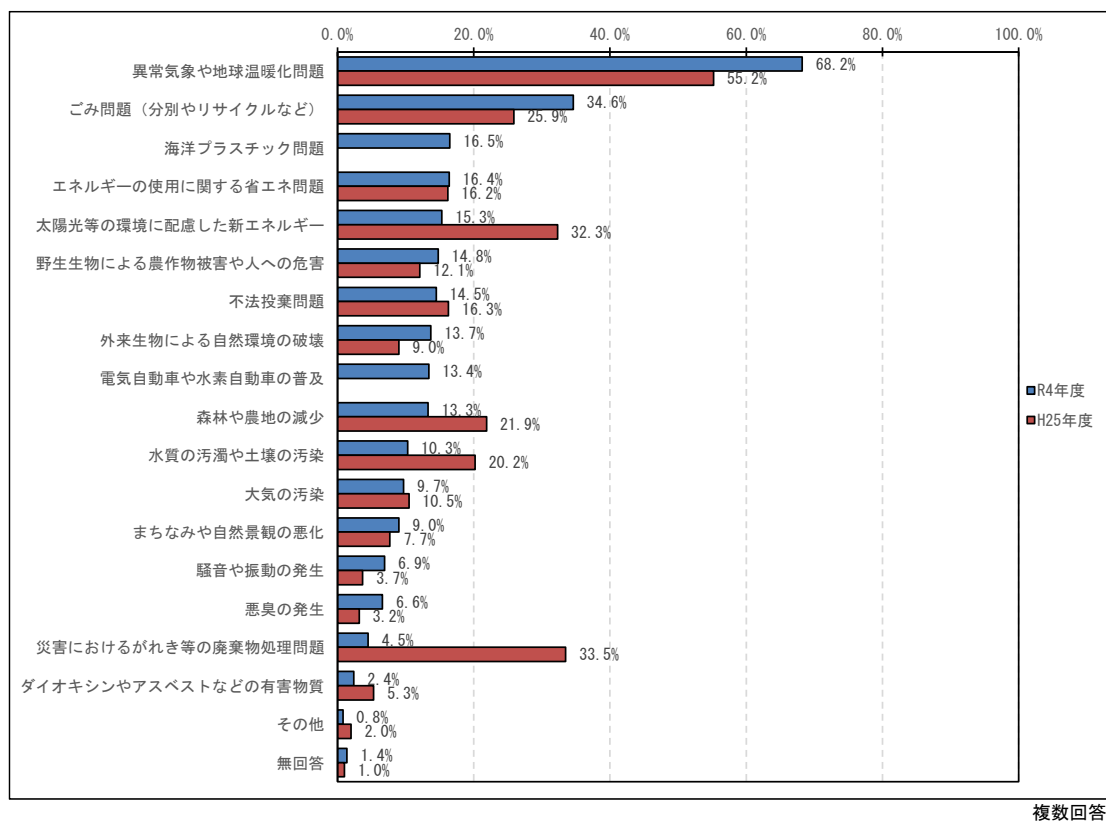
市民の環境に対する意識に関しては、本計画改訂に伴い令和4(2022)年10月に一般市民及び事業所を対象に実施した「阿賀野市環境基本計画及び地球温暖化対策実行計画策定のための市民・事業者アンケート調査」の結果を取組の根拠とします。

### (1) 市民の意識調査

#### ① 関心ある環境問題

「関心ある環境問題」についての回答は、「異常気象や地球温暖化問題(68.2%)」が1位で、平成25(2013)年度結果(55.2%)と比較すると13ポイント増加しました。2位は「ごみ問題(分別やリサイクルなど)(34.6%)」で、平成25(2013)年度結果(25.9%)と比較すると8.7ポイント増加しており、4位から上がりました。その次に「海洋プラスチック問題(16.5%)」が続きました(今年度追加された回答肢のため平成25(2013)年度結果との比較はありません)。

平成25(2013)年度の結果と比較すると「太陽光等の環境に配慮した新エネルギー」の関心が特に減少しており、「森林や農地の減少」、「水質の汚濁や土壌の汚染」も減少が目立ちます。

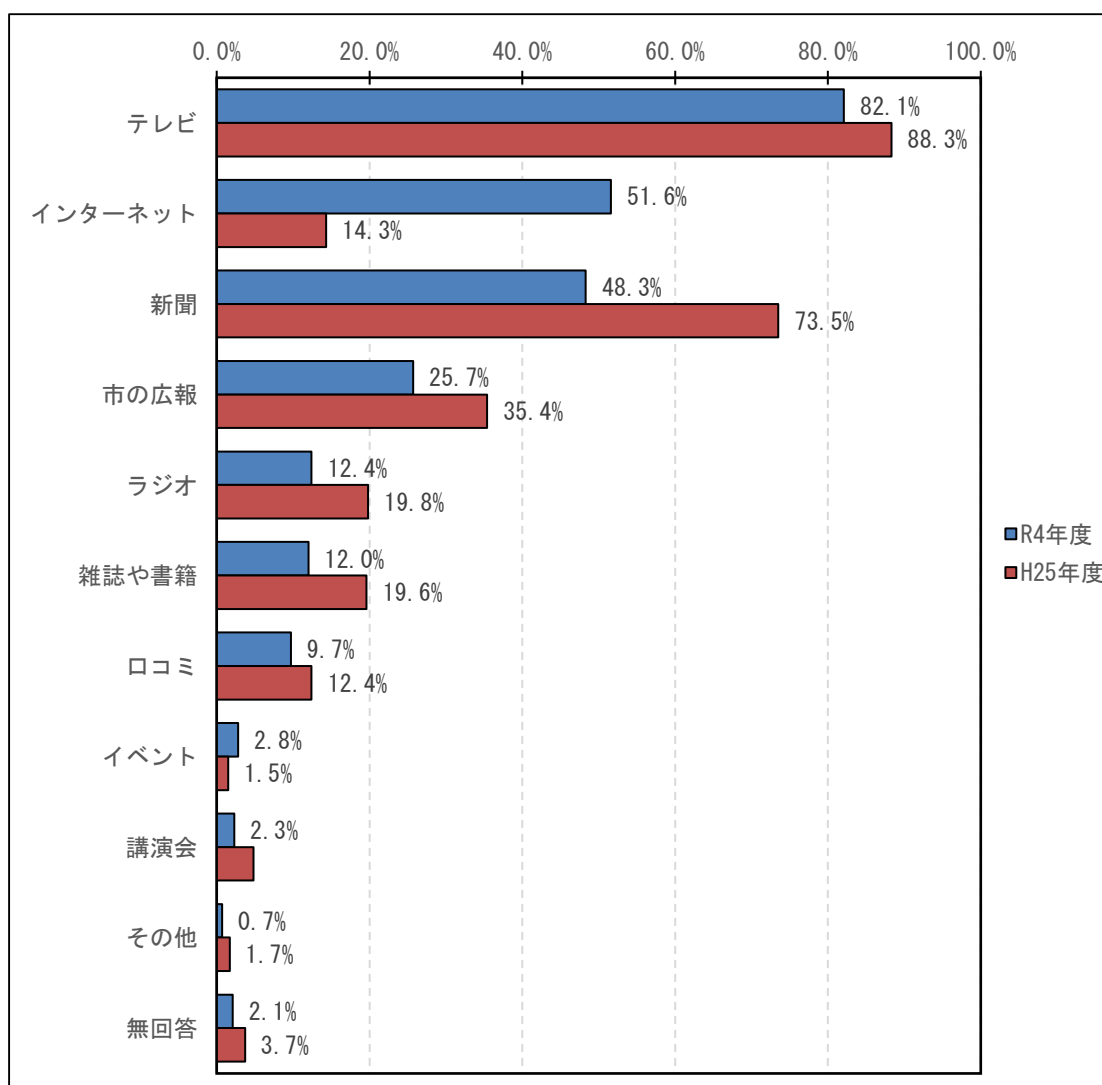




## ② 環境についての情報源

「環境についての情報源」についての回答は、「テレビ(82.1%)」が1位で、平成25(2013)年度結果(88.3%)と比較すると6.2ポイント減少しました。2位は「インターネット(51.6%)」で、平成25(2013)年度結果(14.3%)と比較すると37.3ポイント増加しており、前回の6位から上がりました。「新聞(48.3%)」は、平成25(2013)年度結果(73.5%)と比較すると25.2ポイント減少しており、2位から3位に下がりました。

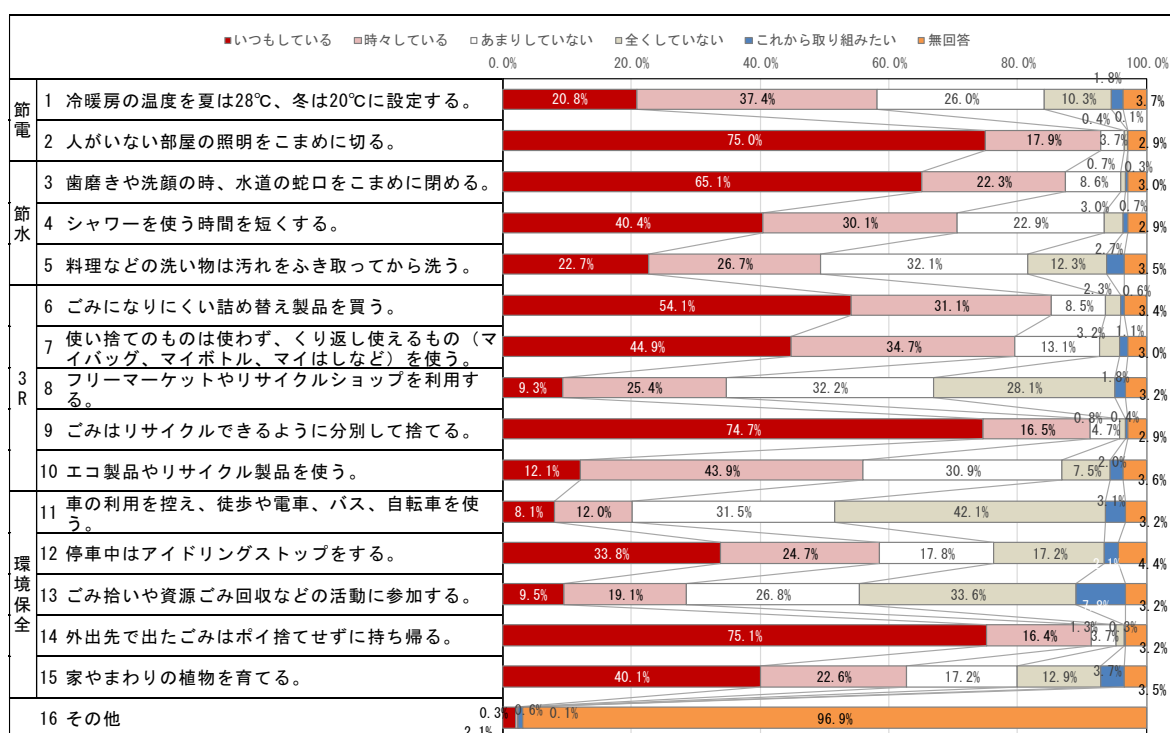
また、「インターネット」の大幅な増加に対して、「新聞」・「広報」などの紙媒体が大きく減少しています。



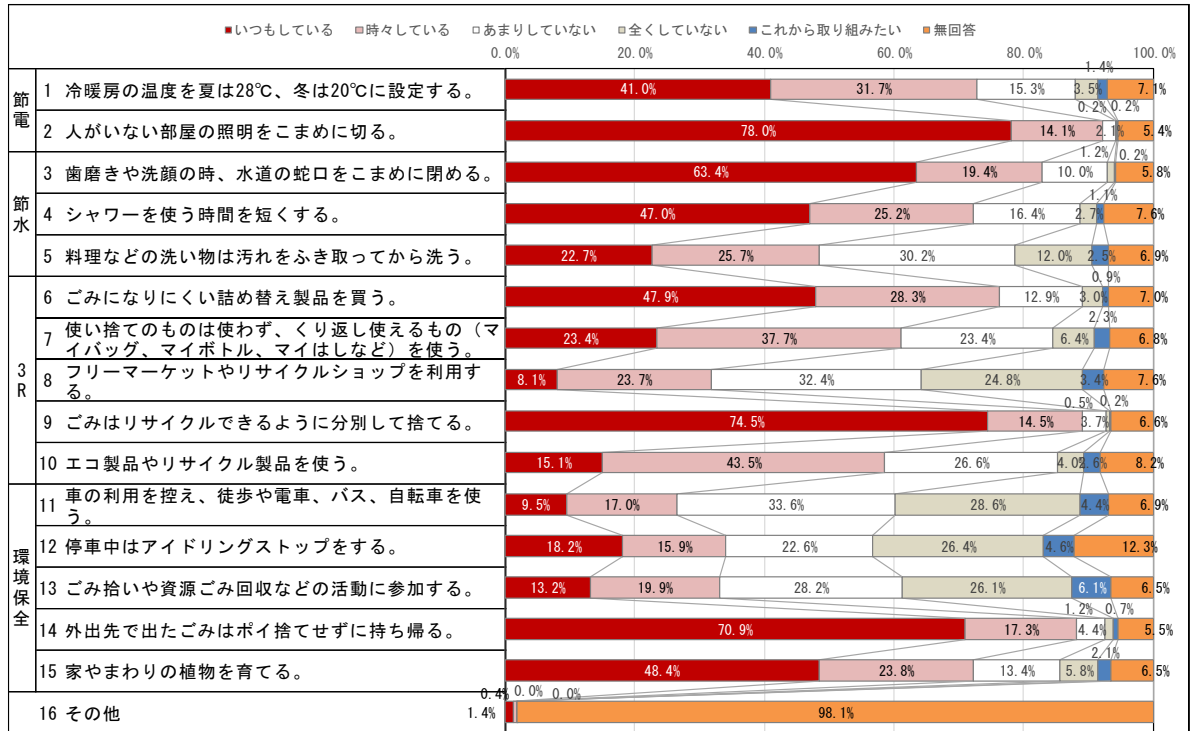
複数回答



に分別して捨てる。(75.0%)」、「14 外出先で出たごみはポイ捨てせずを持ち帰る。(74.7%)」の順に多い結果となりました。平成 25 (2013) 年度の結果と比較すると、「12 停車中はアイドリングストップをする。」、「7 使い捨てのものは使わず、くり返し使えるもの(マイバッグ、マイボトル、マイはしなど)を使う。」、「6 ゴミになりにくい詰め替え製品を買う。」の実施率が増加しています。反対に、「1 冷暖房の温度を夏は28℃、冬は20℃に設定する。」、「15 家やまわりの植物を育てる。」は実施率が減少しています。



R4 年度実績

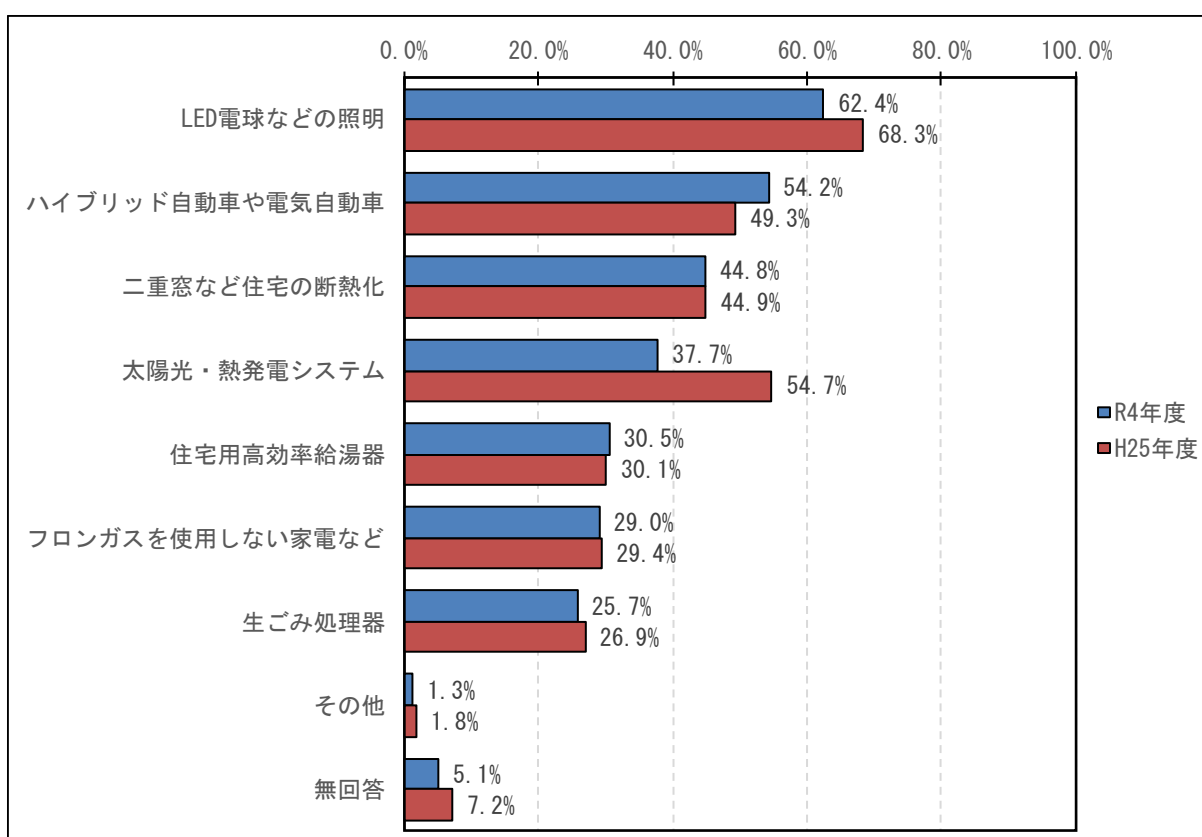


H25 年度実績

### ⑤ 新エネルギー機器や省エネルギー設備への関心

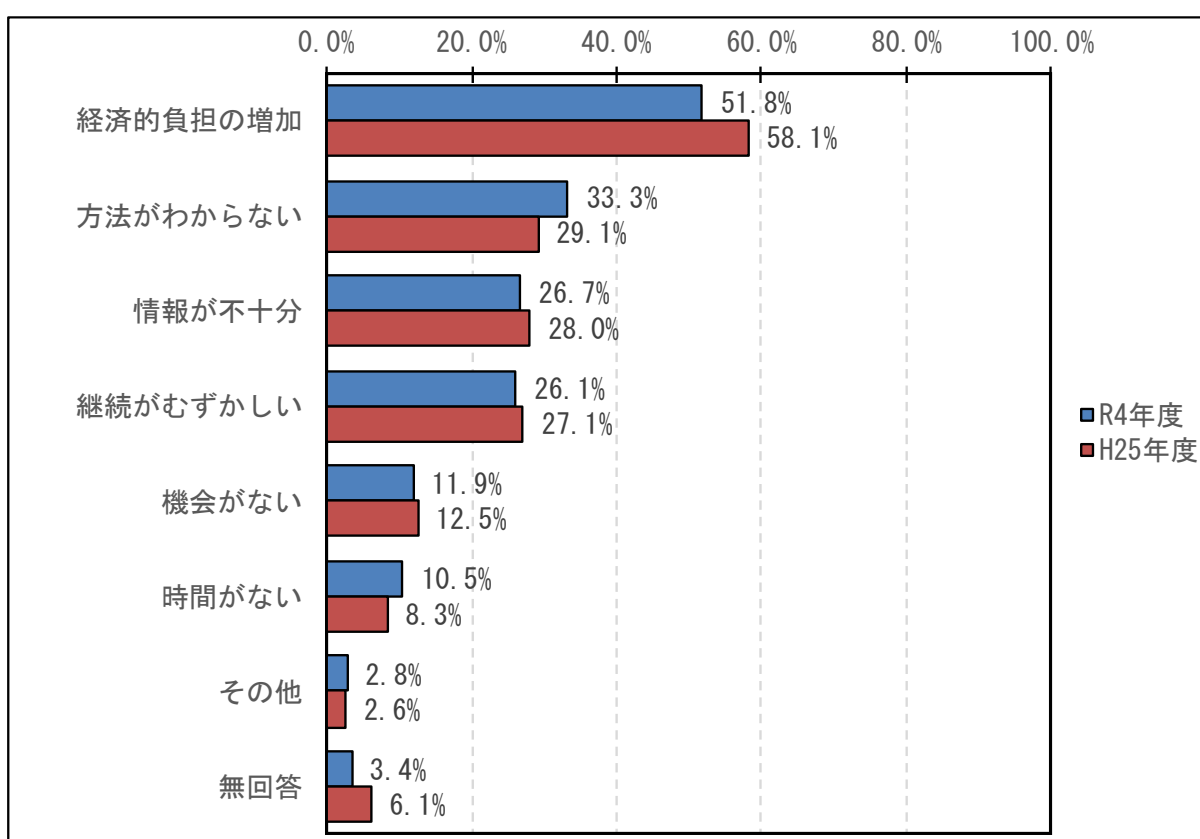
「新エネルギー機器や省エネルギー設備への関心」についての回答は、「LED電球などの照明(62.4%)」が1位で、平成25(2013)年度結果(68.3%)と比較すると5.9ポイント減少しました。2位は「ハイブリッド自動車や電気自動車(54.2%)」で、平成25(2013)年度結果(49.3%)と比較すると4.9ポイント増加しており、3位から2位に上がりました。その次に「二重窓など住宅の断熱化(44.8%)」が続き、平成25(2013)年度結果(44.9%)と比較すると0.1ポイント減少しており、4位から3位に上がりました。

平成25(2013)年度結果とほぼ近い割合でしたが、「太陽光・熱発電システム」の関心の低下が目立ちます。



## ⑥ 新エネや環境保全の取組の支障

「省エネや環境保全の取組の支障」についての回答は、「経済的負担が増加する(51.8%)」が1位で、平成25(2013)年度結果(58.1%)と比較すると6.3ポイント減少しました。2位は「具体的な方法がわからない(33.3%)」で、平成25(2013)年度結果(29.1%)と比較すると4.2ポイント増加しました。その次に「関連する情報が不十分である(26.7%)」が続き、平成25(2013)年度結果(28.0%)と比較すると1.3ポイント減少しました。すべての項目において、平成25(2013)年度結果と近い割合かつ同順となっており、あまり進展が見られません。

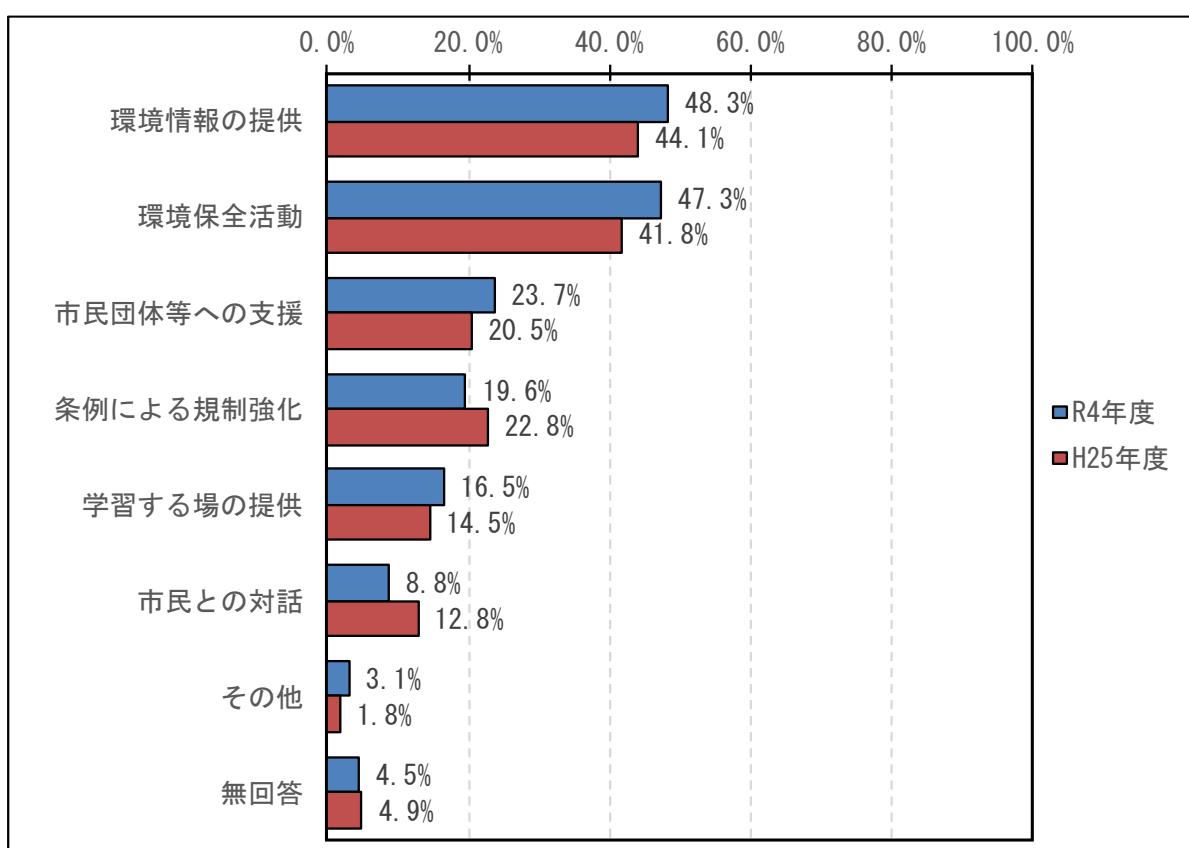


複数回答

### ⑦ 環境に配慮した取組のために行政に望むこと

「環境に配慮した取組のために行政に望むこと」についての回答は、「市民に向けた環境情報の提供(48.3%)」が1位で、平成25(2013)年度結果(44.1%)と比較すると4.2ポイント増加しました。2位は「市の率先した環境保全活動(47.3%)」で、平成25(2013)年度結果(41.8%)と比較すると5.5ポイント増加しました。その次に「環境保全を目的とした市民団体等への支援(23.7%)」が続き、平成25(2013)年度結果(20.5%)と比較すると3.2ポイント増加しており、4位から3位に上がりました。

多少の差異はありますが、平成25(2013)年度結果と近い割合となっています。

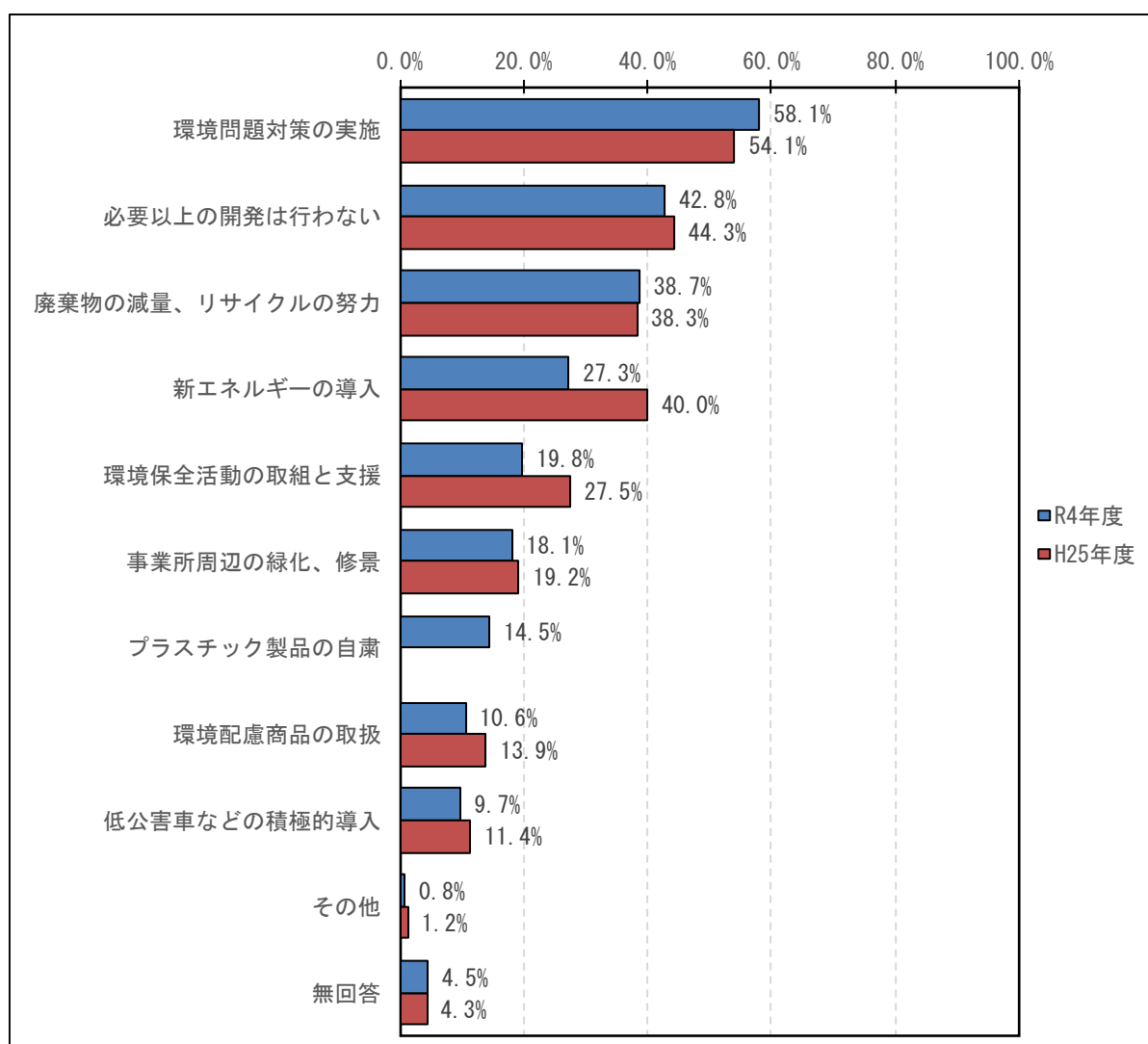


複数回答

### ⑧ 環境に配慮した取組のために事業者に望むこと

「環境に配慮した取組のために事業者に望むこと」についての回答は、「大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、悪臭、有害物質の対策などをしっかり行ってほしい(58.1%)」が1位で、平成25(2013)年度結果(54.1%)と比較すると4ポイント増加しました。2位は「森林や農地などの必要以上の開発は行わないでほしい(42.8%)」で、平成25(2013)年度結果(44.3%)と比較すると1.5ポイント減少しました。その次に「廃棄物の減量化、再生利用、再資源化に努力してほしい(38.7%)」が続き、平成25(2013)年度結果(38.3%)と比較すると0.4ポイント増加しており、4位から3位に上がりました。

全体的に平成25(2013)年度結果と近い割合ですが、「新エネルギーの導入」と「環境保全活動の取組と支援」の割合の低下が目立ちます。



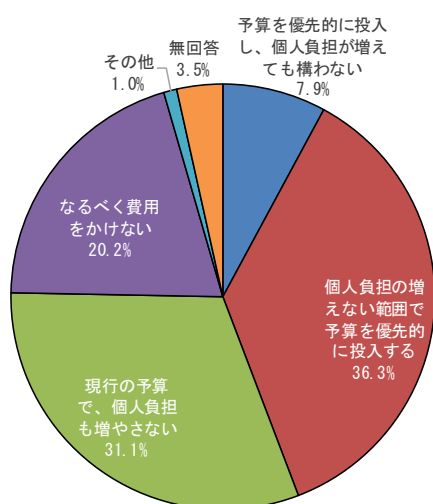
複数回答



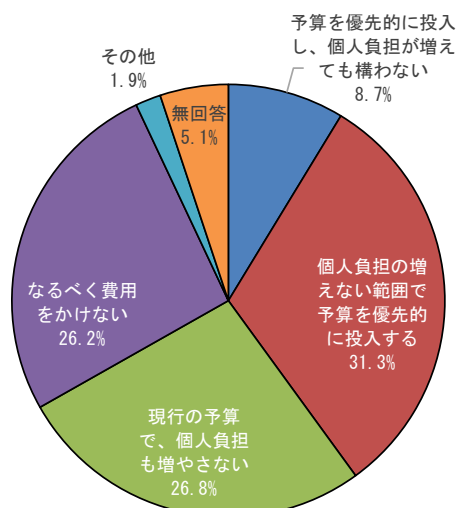
### ⑨ 環境に配慮した取組や地球温暖化対策のための費用

「環境に配慮した取組や地球温暖化対策のための費用」についての回答は、「個人負担の増えない範囲で予算を優先的に投入する(36.3%)」が1位で、平成25(2013)年度結果(31.3%)と比較すると5ポイント増加しました。2位は「現行の予算の中で、個人負担も増やさない範囲で行う(31.1%)」で、平成25(2013)年度結果(26.8%)と比較すると4.3ポイント増加しました。その次に「NPOやボランティアの活動などを進め、なるべく費用がかからない仕組みを進める(20.2%)」が続き、平成25(2013)年度結果(26.2%)と比較すると6ポイント減少しました。

全体的に平成25(2013)年度結果と近い割合となっていますが、より「個人負担を増やさない」ことを重要視する傾向が強まっています。



R4 年度実績

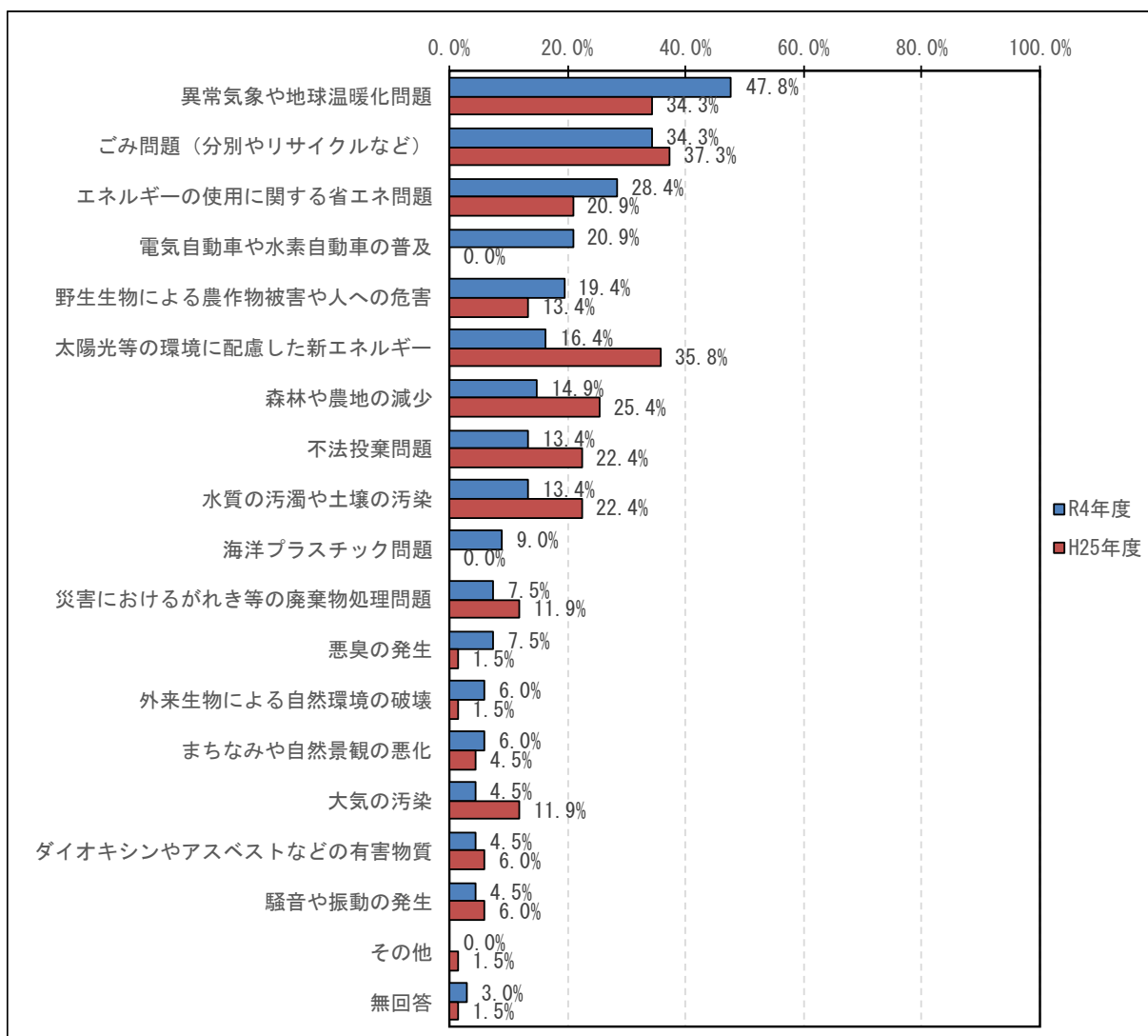


H25 年度実績

## (2) 事業者の意識調査

### ① 関心をもっている環境問題

「関心をもっている環境問題」についての回答は、「異常気象や地球温暖化問題(47.8%)」が1位で、平成25(2013)年度結果(34.3%)と比較すると13.5ポイント増加しており、3位から1位に上がりました。2位は「ごみ問題(分別やリサイクルなど)(34.3%)」で、平成25(2013)年度結果(37.3%)と比較すると3ポイント減少しており、1位から2位に下がりました。その次に「エネルギーの使用に関する省エネ問題(28.4%)」が続き、平成25(2013)年度結果(20.9%)と比較すると7.5ポイント増加しており、7位から3位になりました。増加した点については「異常気象や地球温暖化」が目立ちますが、減少した項目については「新エネルギー」「森林や農地の減少」「不法投棄」「水質や土壌」「大気の汚染」が特に目立ちます。

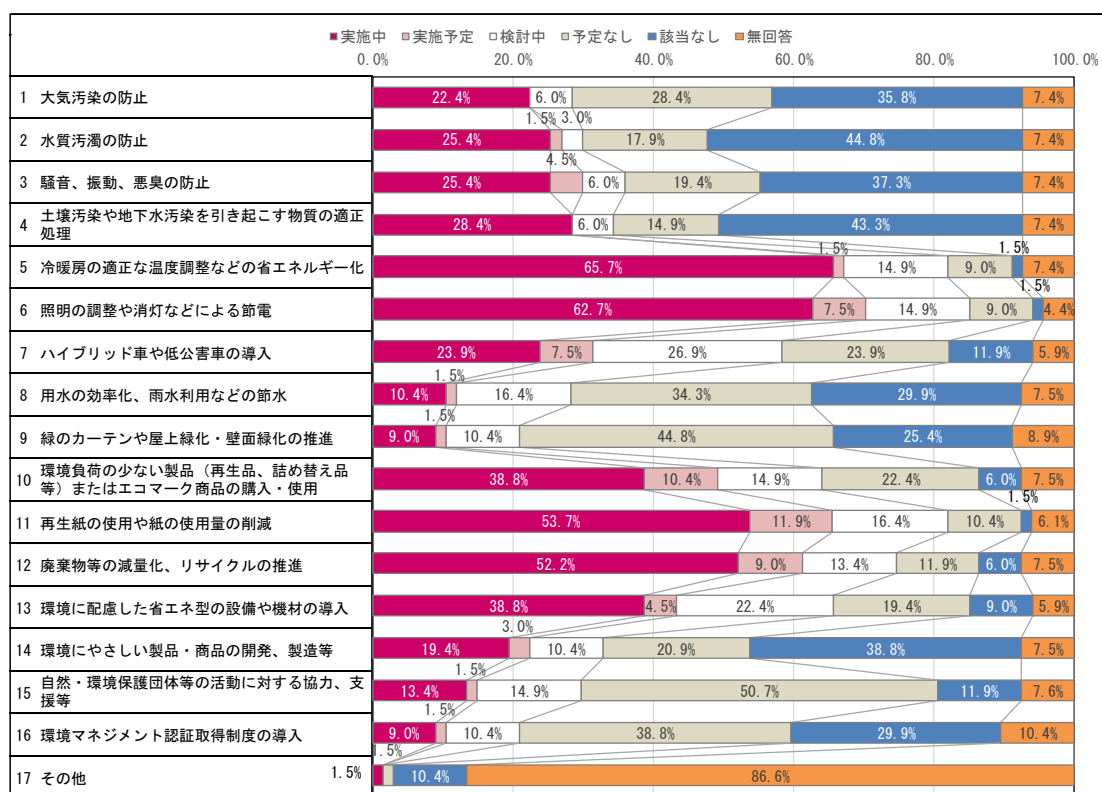


複数回答

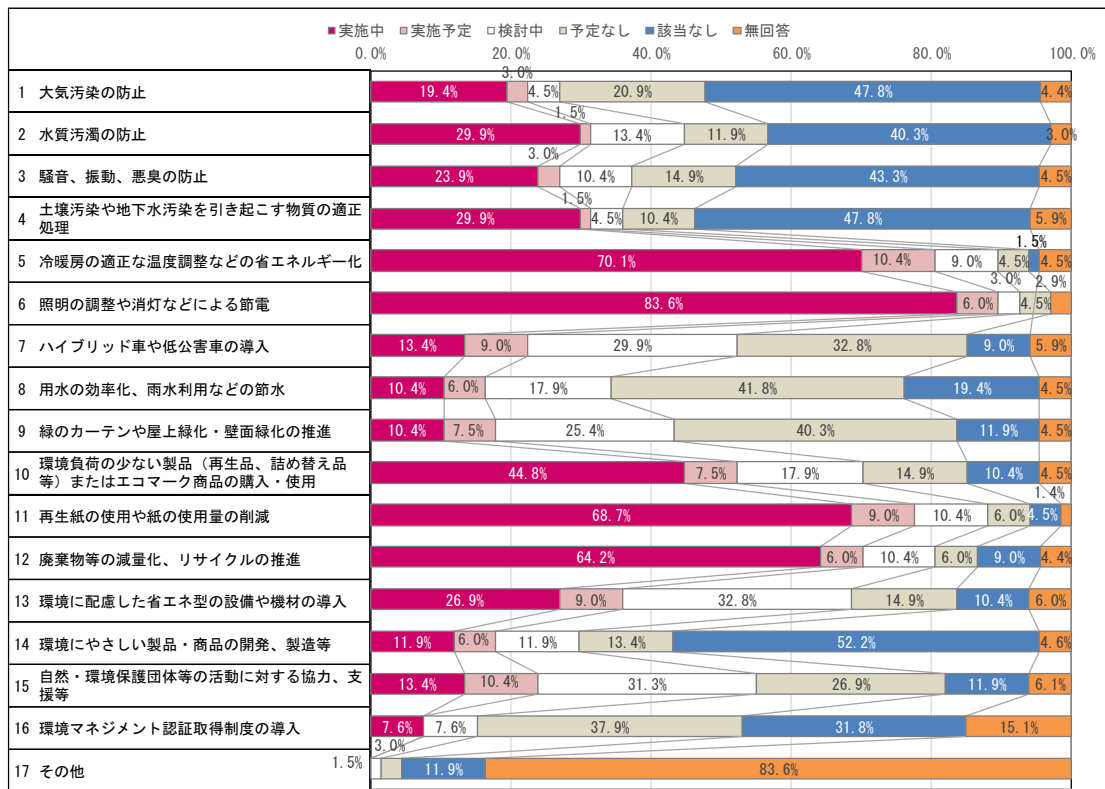
## ② 環境保全に関する日常の取組や今後の意向

環境保全に関する取組の実施率は、「5 冷暖房の適正な温度調整などの省エネルギー化（65.7%）」、「6 照明の調整や消灯などによる節電（62.7%）」、「11 再生紙の使用や紙の使用量の削減（53.7%）」の順に多い結果となりました。

平成25年度の結果と比較すると、増加率・減少率が高い順に、「13 環境に配慮した省エネ型の設備や機材の導入」、「7 ハイブリッド車や低公害車の導入」、「14 環境にやさしい製品・商品の開発、製造等」は実施している割合が増加しており、技術や設備等に関する取組は比較的増加していますが、「6 照明の調整や消灯などによる節電」、「11 再生紙の使用や紙の使用量の削減」、「12 廃棄物等の減量化、リサイクルの推進」は実施率に関しては上位ですが、減少している割合が特に大きく、日常的な行動面での積極性は低下している傾向にあると考えられます。



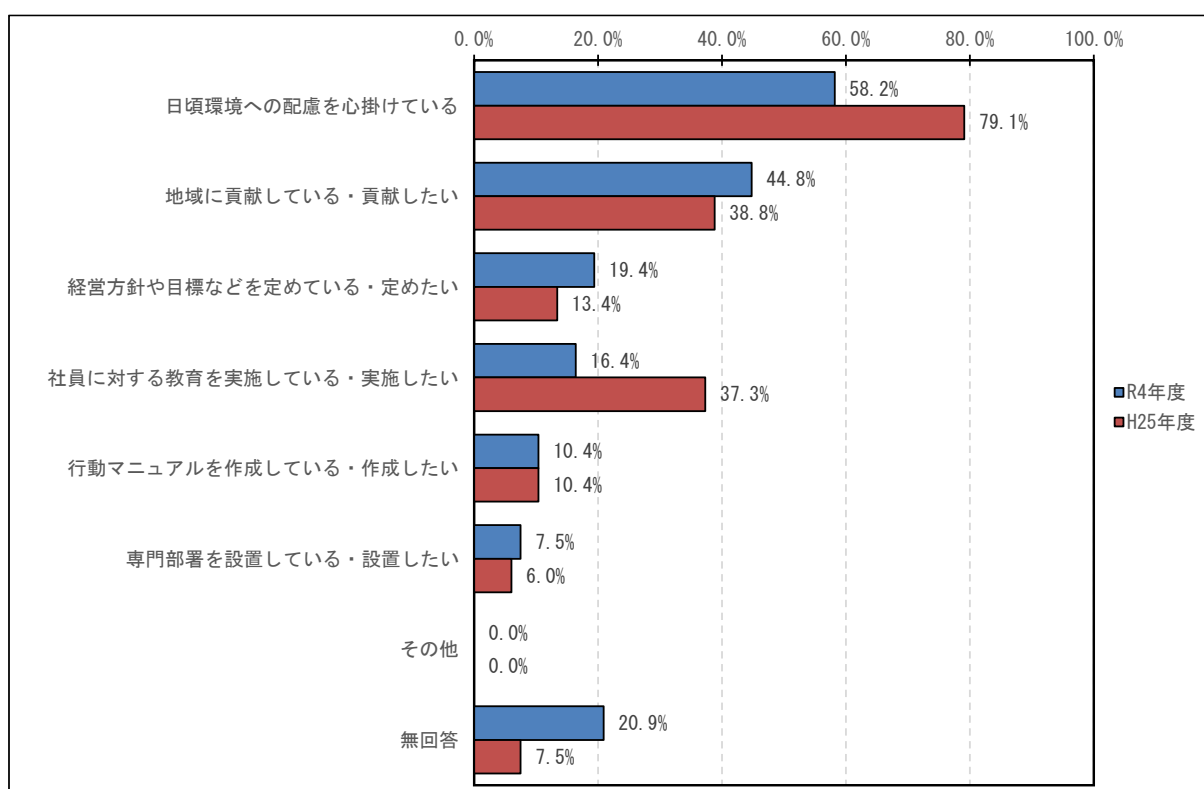
R4 年度実績



H25 年度実績

### ③ 環境保全の体制と方針

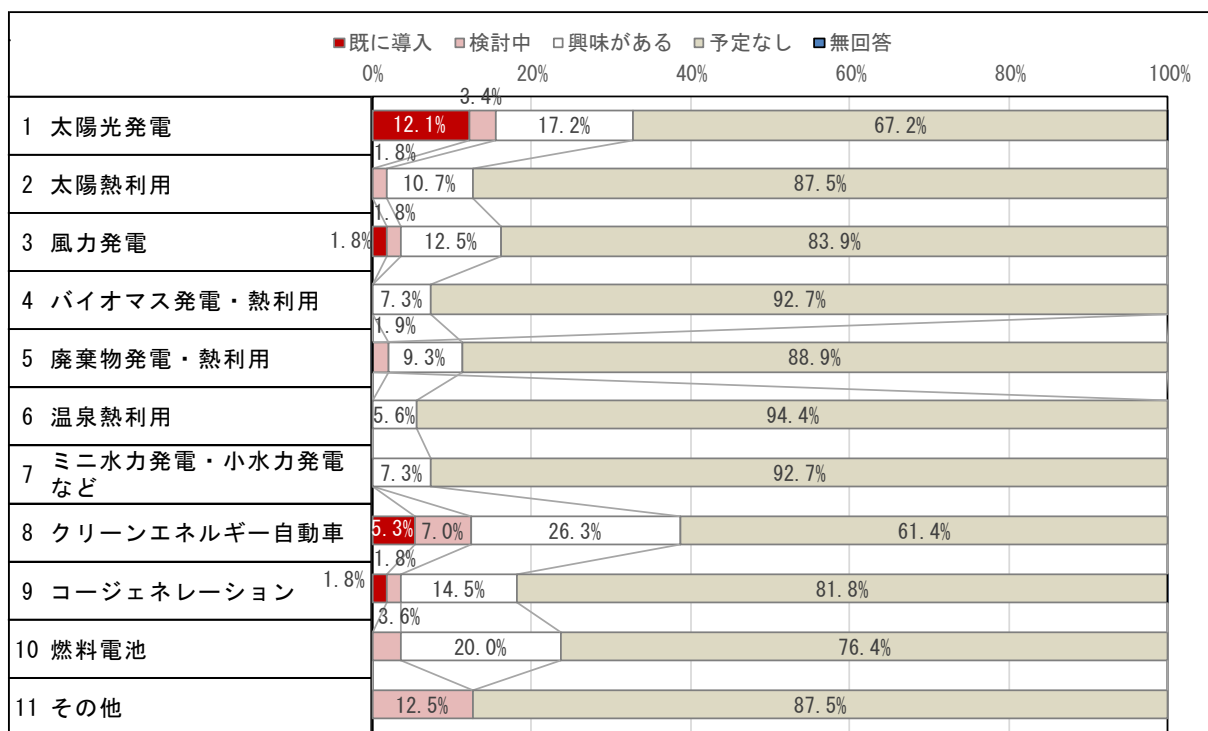
「環境保全の体制と方針」についての回答は、「日頃環境への配慮を心掛けている (58.2%)」が1位で、平成25 (2013) 年度結果(79.1%)と比較すると 20.9 ポイント減少しました。2位は「地域に貢献している・貢献したい(44.8%)」で、平成25 (2013) 年度結果(38.8%)と比較すると 6 ポイント増加しました。その次に「経営方針や目標などを定めている・定めたい(19.4%)」が続き、平成25 (2013) 年度結果(13.4%)と比較すると 6 ポイント増加しており、4位から3位に上がりました。「日頃の環境への配慮」「社員に対する教育」の減少が特に目立ち、対照的に大きく増加した項目もないため、意識が低下傾向にあると考えられます。



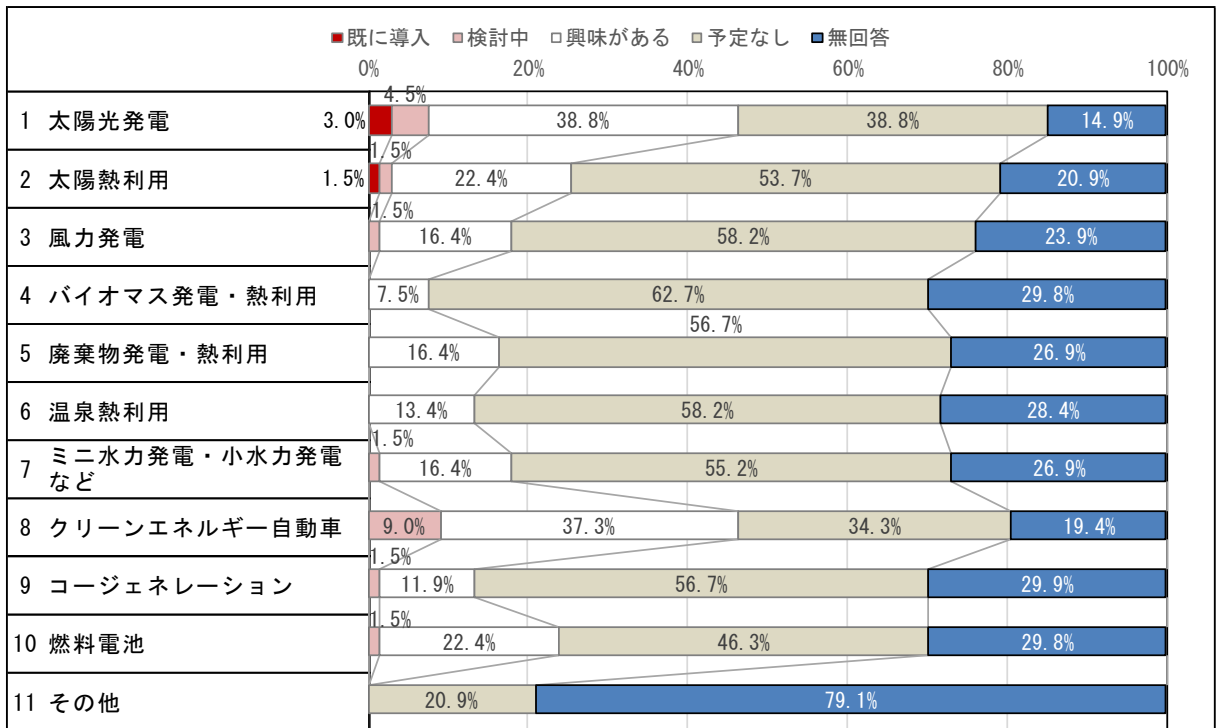
複数回答

#### ④ 導入している・あるいは導入予定の新エネルギー

「既に導入」の回答のうち、新エネルギー導入率は、「1 太陽光発電（12.1%）」、「8 クリーンエネルギー自動車（5.3%）」、「9 コージェネレーション（1.8%）」の順に多い結果となりました。平成25年度の結果と比較すると、「既に導入」から「興味がある」までの回答率も目に見えて低下しており、特に「予定なし」の比率が圧倒的に多く、新エネルギーに対する関心の低下が見られます。



R4 年度実績

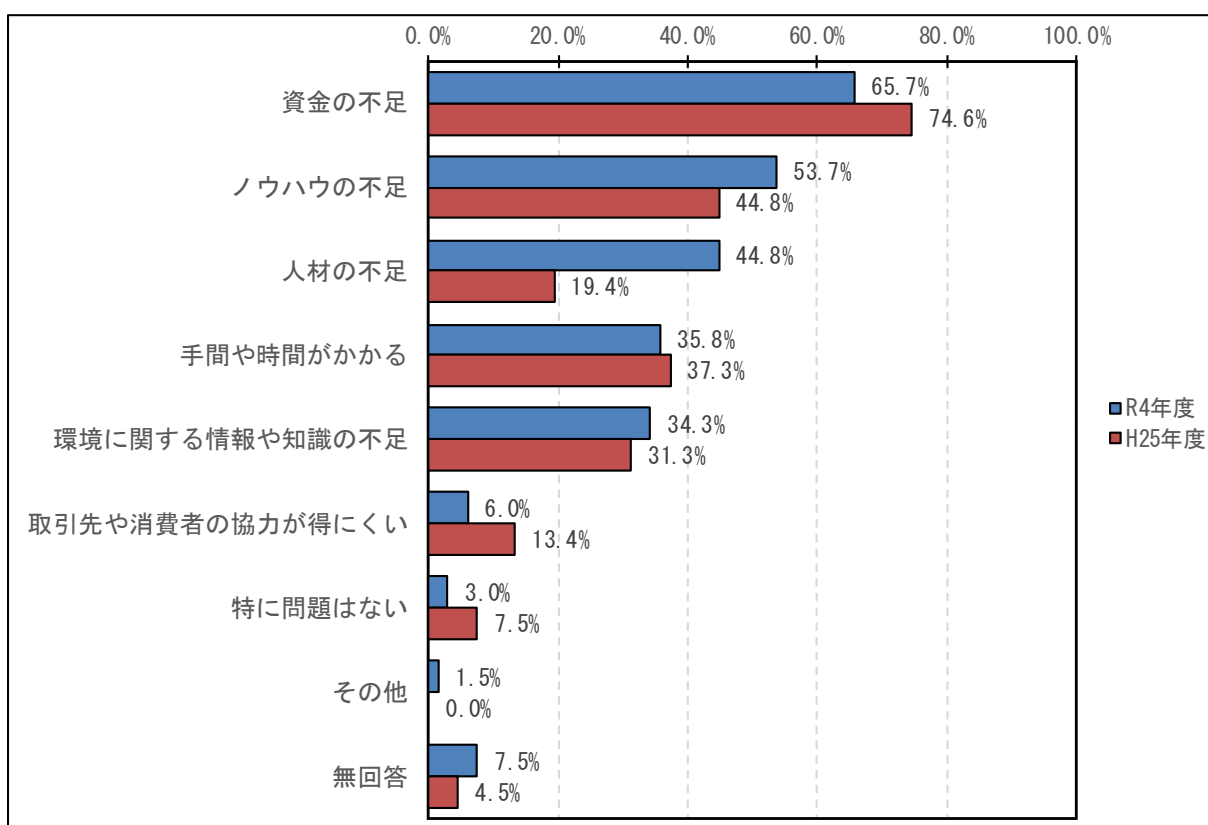


H25 年度実績

### ⑤ 環境保全の取組を進める上での支障

「環境保全の取組を進める上での支障」についての回答は、「資金の不足(65.7%)」が1位で、平成25(2013)年度結果(74.6%)と比較すると8.9ポイント減少しました。2位は「ノウハウの不足(53.7%)」で、平成25(2013)年度結果(44.8%)と比較すると8.9ポイント増加しました。その次に「人材の不足(44.8%)」が続き、平成25(2013)年度結果(19.4%)と比較すると25.4ポイント増加しており、5位から3位に上がりました。

資金の不足と取引先や消費者の協力に関しては平成25(2013)年度からの減少がやや目立っていますが、ノウハウと、特に人材の不足が大きく増加しており、人事面での支障が課題となっていることが見受けられます。

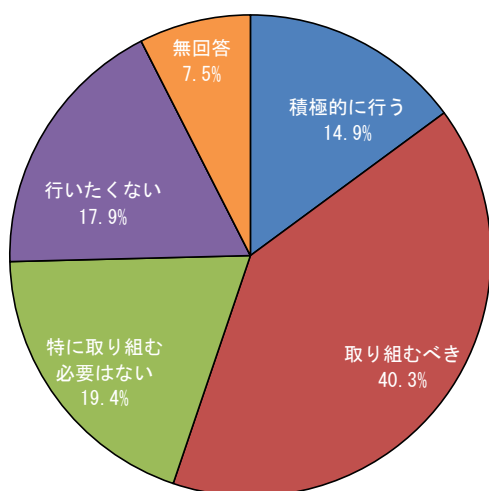


複数回答

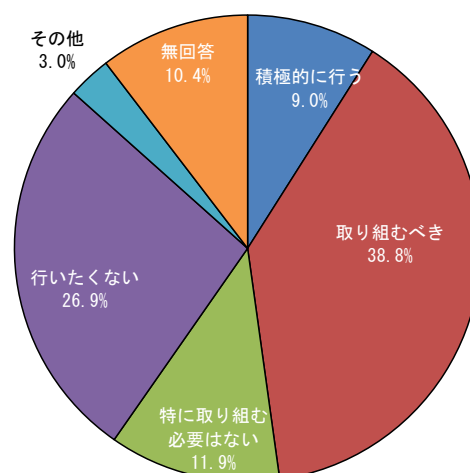


## ⑥ 環境に対する事業者としての対応

「環境に対する事業者としての対応」についての回答は、「取り組むべき(40.3%)」が1位で、平成25(2013)年度結果(38.8%)と比較すると1.5ポイント増加しました。2位は「特に取り組む必要はない(19.4%)」で、平成25(2013)年度結果(11.9%)と比較すると7.5ポイント増加しており、3位から2位になりました。その次に「行いたくない(17.9%)」が続き、平成25(2013)年度結果(26.9%)と比較すると9ポイント減少しており、2位から3位になりました。「積極的に行う」「取り組むべき」の合計は平成25(2013)年度結果と比較すると過半数まで増加しており、「行いたくない」が減少しているため意識自体は向上傾向にあると見て取れますが、「取り組む必要はない」の割合が増加していることから、関心自体の低下も目につきます。



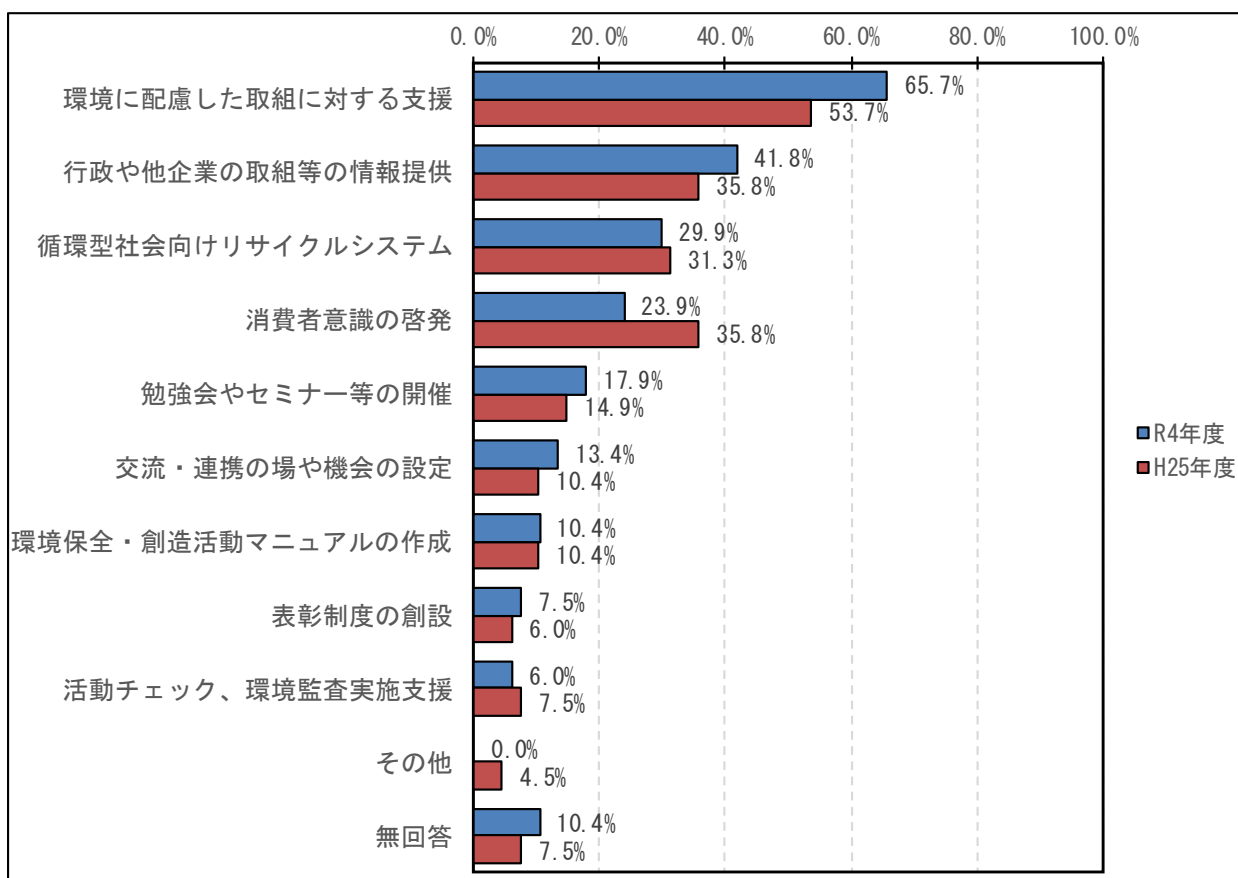
R4 年度実績



H25 年度実績

## ⑦ 行政に望むこと

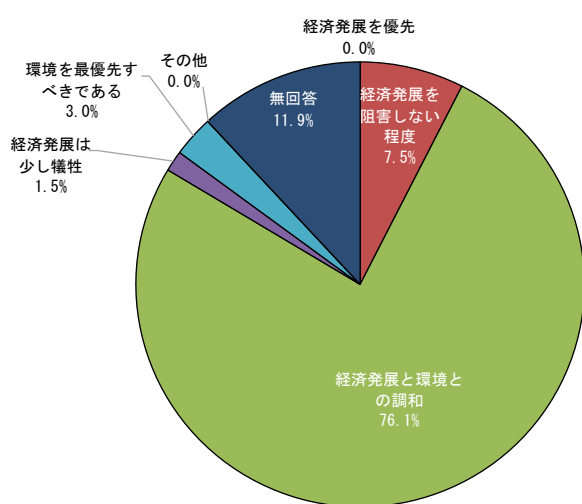
「行政に望むこと」についての回答は、「環境に配慮した取組に対する支援(65.7%)」が1位で、平成25(2013)年度結果(53.7%)と比較すると12ポイント増加しました。2位は「行政や他企業の取組等の情報提供(41.8%)」で、平成25(2013)年度結果(35.8%)と比較すると6ポイント増加しました。その次に「循環型社会向けリサイクルシステム(29.9%)」が続き、平成25(2013)年度結果(31.3%)と比較すると1.4ポイント減少しており、4位から3位に上がりました。全体的に見ると変化は少ないですが、「取り組みに対する支援」がやや大きく増加していることと、「消費者意識の啓発」が大幅に低下していることが目立ちます。



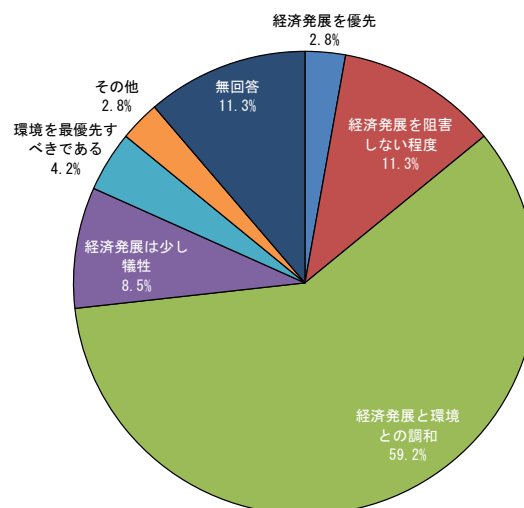
複数回答

## ⑧ 「経済発展」と「環境」の2つの課題に対する考え

「経済発展」と「環境」の2つの課題に対する考えについての回答は、「経済発展と環境との調和を考えていくべきだ(76.1%)」が1位で、平成25(2013)年度結果(59.2%)と比較すると16.9ポイント増加しました。2位は「環境については経済発展を阻害しない程度に考えればよい(7.5%)」で、平成25(2013)年度結果(11.3%)と比較すると3.8ポイント減少しました。その次に「経済発展に関係なく環境を最優先すべきである(3.0%)」が続き、平成25(2013)年度結果(4.2%)と比較すると1.2ポイント減少しており、4位から3位になりました。「調和」の大幅な増加が目立ち、「経済発展を阻害しない程度」を除く他の回答がごく少数となりました。



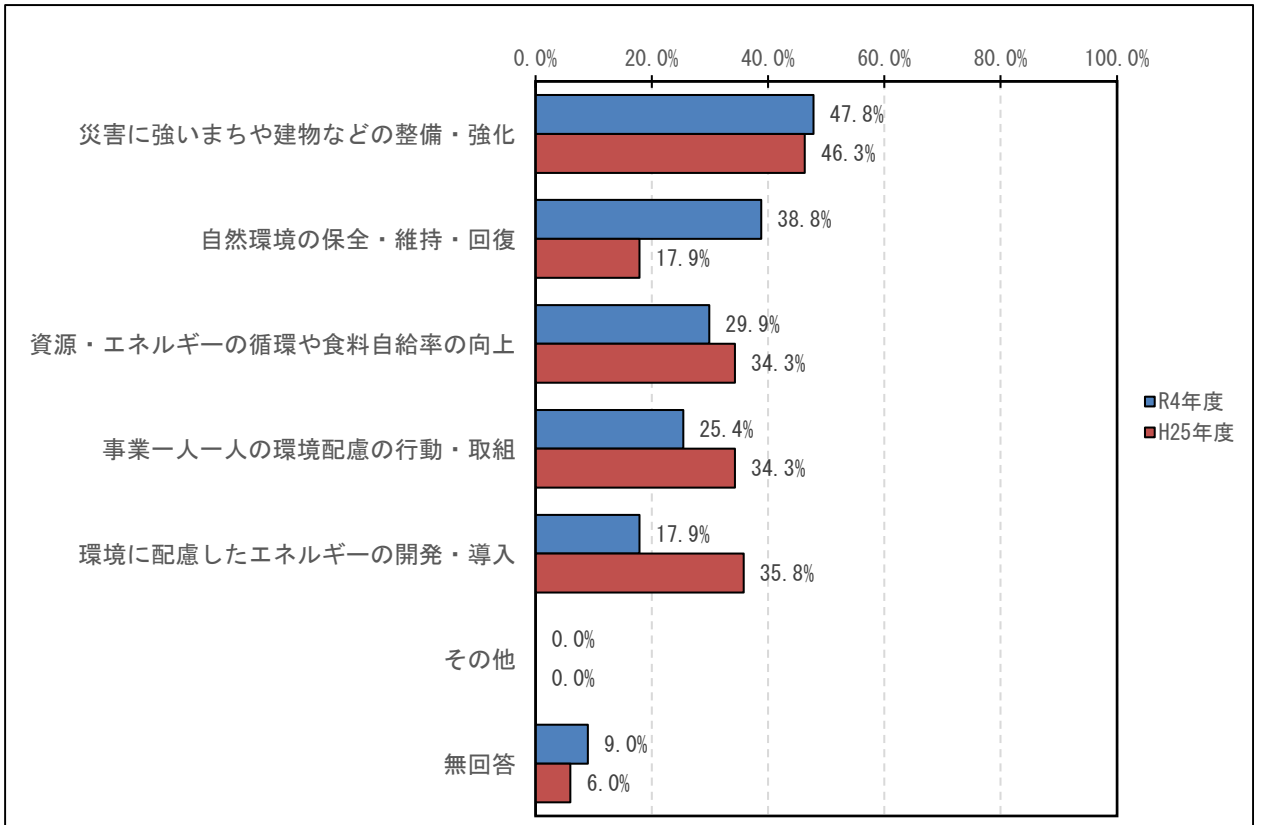
R4 年度実績



H25 年度実績

## ⑨ 持続可能な社会の実現に向けて特に重要だと思うこと

「持続可能な社会の実現に向けて特に重要だと思うこと」についての回答は、「災害に強いまちや建物などの整備・強化(47.8%)」が1位で、平成25(2013)年度結果(46.3%)と比較すると1.5ポイント増加しました。2位は「自然環境の保全・維持・回復(38.8%)」で、平成25(2013)年度結果(17.9%)と比較すると20.9ポイント増加しており、5位から2位に上がりました。その次に「資源・エネルギーの循環や食料自給率の向上(29.9%)」が続き、平成25(2013)年度結果(34.3%)と比較すると4.5ポイント減少しました。「自然環境」を重要視する傾向が大幅に高まりましたが、「エネルギー」に対する関心の低さが目立ちます。



複数回答

# 阿賀野市第2期地球温暖化対策実行計画

## [区域施策編]

令和6年3月

---

策定機関

新潟県阿賀野市

編集・発行 阿賀野市役所

市民生活課 脱炭素・SDGs推進室

---

連絡先

阿賀野市役所

〒959-2092

新潟県阿賀野市岡山町10番15号

TEL 0250-61-2510 (代表)

URL <http://www.city.agano.niigata.jp>